2025.7.28 幼小接続を省察する

先日、前期課程１年生の担任、幼小接続主任、前期研究主任、年長担任、園研究主任とで今年度のスタートカリキュラムについて省察をしました。
実際に今年度やってみて、前期の先生からもいろいろな感想がでました。
・朝不安気に登校してきた子も、走って遊ぶことができることがわかると、笑顔になり一緒に走り出す姿が見られた。
・けん玉が得意なことがわかり、けん玉を用意するとみんなに披露しはじめ、その子の得意から集団の中での居心地の良さにつながった。
・学校探検に行った子の中で、扉に興味をもち、扉がいろいろな部屋をつないでいくことの面白さや防火扉の存在について、防火扉の中に小さい扉がついているとか、給食の配膳車を運ぶエレベーターの扉があり、そこの表示についてなど気付きは多種多様で、それが全体に広がり、みんなで扉について考えるきっかけになったり、他の先生方に質問することでそこのつながりが生まれたりなどした。
・自分の得意、好きなことができる時間と空間があったため、自己発揮する姿が見られた。
・ルールなどもその都度考え共有してきたが、広げすぎてしまうと、いろいろなルールが一気に入ってきて全てが中途半端になってしまう。
・共通体験の大切さを改めて感じた。その中で友達とのコミュニケーションがとりやすく、友達の良さに気付く子もいるだろう。出てくる疑問点などもみんなの疑問としてつながっていくのではないか。

これらは一部ですが、この４月初めの「ふれあいタイム」が安心感を育む時間になっていること、安心感の上で、子供たちは自己発揮をしていくことなどがいろいろな子供たちの姿を語り合いながら改めて確認されました。
今年は幼稚園の担任も全員１年生の「ふれあいタイム」の様子を見に行きました。その上で園での経験がいろいろなところで自分の力として発揮されていること、園でのみんなの時間がそのまま「はなそうタイム」になっていること、また出身園が違う子同士、自分の好きなことを通して一緒に遊んだり、つながったりしている姿が見られたことなど感動も大きいものでした。また年長の時の様子から、４月大丈夫かな？と思っていた子が、とても笑顔で過ごしていたことがなにより嬉しかったです。
さらに「はなそうタイム」をどう持っていくのか。ただの発表する場ではないようにしたい。話したい子はたくさんいる。しかしそれを全て言っていくと、収拾がつかないし、他人ごとになっていく子もたくさんいる。子供たちの話したい思いは受け止めながら、意図的に取り上げることもやはり必要。この「はなそうタイム」を子供たちにとって居心地のいい時間にしたい。雑談をいれていくことも大切ではないか。
そしてその中で、次への可能性、期待感、個と協働の架け橋になるような「はなそうタイム」にしていきたい。

令和元年度に「ふれあいタイム」をしようと前期教員と幼稚園教員で集まり、語り合い、検討を始め、令和２年度から実施をしてきました。途中コロナ禍もあり、休校だったり、直接見に行けなかったりとありましたが、オンラインで対話を重ねながら、コツコツと幼小接続を進めてきました。
１年生の担任は毎年変わりますが、前期課程に幼小接続主任が設けられたことで、ふれあいタイムの意義、価値についてより自分事として考えるようになり、教室の環境について幼稚園の保育室を見てそれを参考にして取り入れたり、２年生から９年生まで学校全体で１年生の入学期を支えるという文化になってきたりなど、変化してきたように思えます。
秋以降は年長、１年生による交流が始まります。これまでの語り合いで感じたことを念頭に、一緒に遊んだり、関わったりする中でそれぞれの育ちを共有し、お互いにとって価値ある時間にしていきたいです。